



# 緑の風

平和を<sup>考える</sup>シリーズ 第2回

本物にふれよう講座

「笑顔おおもり」絵本ライブ

はせがわ よしふみ  
長谷川 義史さん

アーサー・ビナードさん

おおとも たけし  
大友 剛さん

校長先生、そっくり!!

11月15日(木)、緑が浜小学校区青少年育成推進協議会主催で詩人のアーサー・ビナードさん、絵本作家の長谷川義史さん、ミュージシャン&マジシャンの大友剛さんをお招きして絵本ライブ公演が行われました。

まず登場したのは、大友剛さん。最初に、全国の被災地支援のためにボランティアで公演していることもあり、写真を使って復興がまだまだ進んでいない現状を報告されました。そして始まったのは、楽しいマジック! トランプや2つの瓶が紙袋をワープするなど不思議なマジックの数々に、子どもたちは「えー!」「なんでー?!」と驚きの声が上がりました。ピアノカとピアノの同時演奏では静かに聴き入ったり、翻訳した絵本「えがないえほん」で爆笑したり。さらに絵本「ねこのピート」では、「カーナーりさいこう♪」と一緒に歌って大盛り上がりでした。

次に登場したのは、長谷川義史さん。模造紙にお話ししながら絵が展開されていくライブペインティングに子どもたちは釘付け。校長先生にそっくりな似顔絵に、会場は爆笑の渦でした。続いて、大人気絵本「いいからいいから」のライブペインティングではみんな笑顔おおもり。「おへそのあな」「へいわってすてきだね」の朗読に子どもたちは聴き入り、保護者は涙ぐむ方も…。最後に長谷川さんが「僕は小さい頃から絵を描くのが好きやった。それがずーっと続いて、今はそれを仕事にしています。みんなも早く、好きなことを見つけてくださいね」とメッセージを残してくださいました。

1枚選んでください!



笑ったり泣いたり大忙しの絵本ライブの後は、アーサー・ビナードさんのトークへ。



「笑顔おもしろ」絵本ライブ

「ひらがなは何文字?」「カタカナは?」「漢字は何文字あるか知ってる?」といきなり子どもたちに質問をして、国語の授業が始まりました。英語のアルファベットが26文字なのに対し、ひらがな・カタカナ合わせると100文字。漢字は数え切れないくらい。最初に日本語を知った時は衝撃だったそう。英語で名前の「Arthur」を書く

と発音も力強い。でも「アーサー」や「あさあ」と書くと、力が抜けたような発音になる。1つの言葉なのに、書き方が違えば違った言葉に聞こえるという話に、子どもたちは時に笑いながらも興味津々で聴き入っていました。「Sunnyside up」と「めだまやき」は同じ卵なのに、全然別なものみたい。日本人は「めだま」を食べるなんて!

そして話は「Atomic bomb」と「原子爆弾」のお話へ…。「Atom」や「原爆」と省略できるけど、僕が広島で被爆した人たちから聞いた時、「ピカ」や「ピカドン」という言葉が出てきた。「違いが分かる人いる?」とアーサーさん。子どもたちが「はいはい!!!」と手をあげていろいろ推測するも、なかなか当たらない。答えは、被爆した人の爆心地からの距離。「ピカ」が爆心地の中心。「ピカドン」が爆心地から2km以上離れたところを表していて、「ドン」という音を聞いた人が使っている。上から落とされたのが原爆。下から見上げたのがピカとピカドン。どの言葉を使うかによって、自分の立つ位置が違ってくる。

物事をいろんな視点から見ることの大切さを、時にユーモアを交えて深く伝える言葉の魔術師・アーサーさん。1年生から6年生まで、全身でお話を聞いていました。最後は、3人の歌、ピアノ、ライブペインティングでのコラボ。「What a Wonderful World」をアーサーさんの日本語訳で歌い、アドリブで「にじ」が最後に流れると、低学年の子どもたちが自然に手話つきで歌い始め、それが伝染して中・高学年も一緒に歌うという素晴らしい空間ができました。見ていた大人は、ハンカチで涙をぬぐう人続出。本当に感動的な場面となりました。完成した絵は、子どもたちにタイトルを考えてもらい、「めだまやきのきみとわたし」というタイトルになりました!

午前公演終了後、給食を挟んで午後は、緑が浜小P.G.T.主催による「大人のためのお話会」へ。保護者のみなさんからいただいた質問に3人が答えていく形式で進みました。「どんな子ども時代を過ごしたか」「学校が子どもの感性を育てる場にするにはどうしたらいいか」「歴史認識など家庭でどう子どもに伝えていけばいいか」など。こちら1時間では全く時間が足りないほど大盛り上がり!笑いを交えつつ、物事の本質を見抜く大切さ、毎日の暮らして何を選んでいくかなどについて考えさせられる内容となりました。

そして最後は「イツ・ア・スモールワールド」と「What a Wonderful World」をアーサーさんの訳で歌、ピアノ、ライブペインティングと感動のコラボアンコール!完成した絵には、「雨にもジャンプ!」というタイトルがつけられました。沢山の笑顔と涙があふれた絵本ライブ&お話会になり、子どもたちだけでなく、保護者や先生方の心と魂に深く響いた時間となりました。アーサーさん、長谷川さん、大友さん、かなりさいこう♪な一日をありがとうございました!

感想♪

- 「アーサーさんが、めだまやきのめだまって言ってる時がおもしろかった。」(S.Hさん 1年)
- 「アーサーという発音が、英語と日本語とで違うことがわかった。あとピカとピカドンとの違いもわかった。」(K.Sくん 2年)
- 「長谷川さんが住んでる場所の話から校長先生の顔が変わったのが面白かった。おへそを顔に書くときが緊張した。」(T.Sさん 4年)
- 「ピーナッツバターとブルーベリージャムのマジックで、1回しか振ってないから入れ替わってないと思ったのに、本当に入れ替わってびっくりした!」(S.Nさん 5年)
- 「長谷川さんの読み聞かせで泣きそうになった。大友さんの音楽があったから余計にだと思ふ。音楽の力ってすごい!」(T.Yくん 6年)
- 「言葉を選び過ぎていない真剣なお話がリアルで、とても魅力的でした。」(R.Tさん 1年保護者)
- 「歌と音楽・言葉・絵、3人が織りなす個性的な表現を通じ、それぞれの世界観に触れられて、子どもも親も豊かな時間を過ごすことができました。」(I.Tさん 6年保護者)

伝統文化をもっと身近に

淡路人形浄瑠璃

へえ〜なるほど!

人形浄瑠璃は三味線と太夫による浄瑠璃(義太夫節)に合わせて、一体の人形を三人の人形遣いが操りながら物語を演じます。淡路人形浄瑠璃は五百年の歴史を誇り、1976年に国指定重要無形民俗文化財に指定されました。



10月2日(火)、文化庁の「文化芸術による子どもの育成事業—巡回公演事業—」で、淡路島から「淡路人形座」が来ていただきました。

公演に先立ち、6年生は6月にワークショップを開いていただき、舞台に出演するための練習を重ねてきました。

体育館に入り、まず目に入るのは、ステージを覆い隠すほどの歴史を感じる大きな垂れ幕。いつもと違う体育館に子どもたちは、わくわくどきどきな様子です。

一つ目の演目は「生写朝顔日記 大井川の段(いきうつしあさがおにつき おおいがわのだん)」。

静まり返った体育館に響き渡る三味線の音、情感豊かに語る太夫の声。6年生は緊張した面持ちで背筋をぴんと伸ばし、自分たちが語る浄瑠璃のパートを待ちます。そして舞台に出てきたのは、まるで生きているかのような艶めかしい動きの人形。子どもたちは息を呑んで見入っていました。

生写朝顔日記が終わると、三味線、浄瑠璃、人形についての解説があり、5年生の3人が代表で前に出て人形遣いの体験をしました。その時教えてくれた人形遣いの吉田さんのしゃべりと関西弁のつつこみが面白おかしくて、子どもたちは爆笑に次ぐ爆笑!人形の動かし方や目線ひとつで同じ所作が全く違うものに見えてくるのには驚きでした。



東西〜このところ相動めするは〜



まず一献(いっこん)いたそうかい

二つ目の演目は「戎舞(えびすまい)」。6年生は戎様にお酒を注ぐ人形を遣います。プロの方とは違ったちょっとおかしい動きの人形に子どもたちは大盛り上がり。戎様がお酒を振る舞われ「授業を1時間だけにして」「好きな科目以外なくなるように」といった子どもたちの願いが読まれると、観ていた父兄は顔を見合わせて苦笑い…。

最後の演目は「本朝廿四考 奥庭狐火の段(ほんちょうにじゅうしこう おくにわきつねびのだん)」。八重垣姫の哀しげな様子から始まりますが、とても華やかな演目で、狐の登場シーンや早着替えの場面では歓声があがりました。

人形浄瑠璃と聞くと、大人でも難しそう、意味がわからなそうといったイメージがありますが、今回のように子どもに親しみやすいようワークショップや解説を楽しくしていただいたことで、低学年の子どもたちも、「楽しかった!」「早着替え凄かった!」「すごく面白かった!」と喜んでいて、日本の伝統文化がより身近になったように感じました。

子どもたちの声



教えてくれたおっちゃん面白かった!(6年女子)



声を出すのは緊張したけど楽しかった。(6年女子)



人形の糸を引っ張る時結構力がいるから難しかった。(5年男子)

最後に、人生の先輩として一言! 夢は持ち続けることが大事です!

緑小の子どもたちは、とても明るいですね。観る時は観る、遊ぶ時は遊ぶ、人の話をきちんと聞くことができる。とてもレベルが高いと思いました。私たちの地元では、子どもの頃から人形浄瑠璃が身近にありました。お祭りでは人形浄瑠璃が披露されるのは当たり前、中学校にはクラブ活動もありました。身近にありすぎて大切だと気付くのが遅くなってしまっただけ、これをきっかけに日本にある伝統芸能や歴史、文化に少しでも興味をもってもらえたら嬉しいし、大切にしたいです。もし将来、人形浄瑠璃をやりたいと思った子がいたら、いつでも来てください。笑 大歓迎です! また皆さんにお会いできることを楽しみにしています。ぜひ、淡路島にも遊びに来てください。

人形遣いよしだ しこう 吉田 史興さんからのメッセージ





# 第18回 運動会「全力でつかもう 勝利のバトン!!」

2018.10.28 (日)



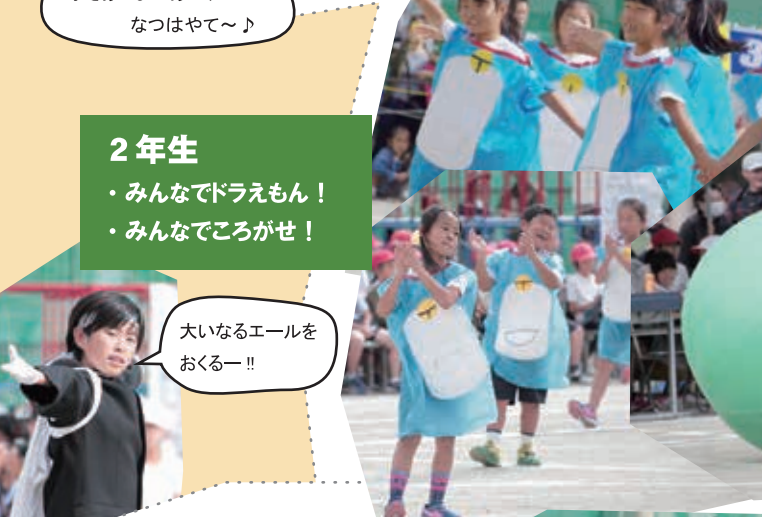
今年の運動会は、前日のお天気が雨予報だったため、早めの判断で、翌日の日曜日の開催となりました。当日は、気持ちのいい秋晴れの中、みどりっ子たちは、練習の成果を堂々と披露してくれました。



**1年生**  
 ・秋疾風（あきはやて）  
 ・チエチエコリ玉入れ



**2年生**  
 ・みんなでドラえもん！  
 ・みんなでころがせ！



大きなエールをおくるー!!



**3年生**  
 ・サンサンダンス～U.S.A.～  
 ・サンサンつなとり

♪カ～モン ベイビー アメリカ～♪



オッス!!



ハラハラ、ドキドキ。大玉送り



緑小の力が結集したモザイク壁画

第18回 緑小運動会



白組が大差で勝利!



いくぞー!

クライマックスは高学年リレー

今年は角田先生が飛びました!



ウーハー！セイヤーツ!

**4年生**  
 ・Rising!  
 ・台風の日



1年生による、はじめの言葉



どっこいしょ～、どっこいしょ!!  
 ソーラン、ソーラン!!

**5年生**  
 ・緑小ソーラン～翔～  
 ・あの旗をつかめ



一人一人、手描きの衣装

**6年生**  
 ・組立体操～創造～  
 ・騎馬戦～緑が浜 秋の陣～

やったあ!!!



470 532



# 自主学习ってどうしたらいいの？

前号に引き続き、子どもたちの宿題事情を調査。今回は、中学年の3・4年生の宿題を取り上げます。この学年の特徴は自主学习がはじまること。子どもたちはどんな様子で宿題をしていますか？うちの子は勉強足りているのかな？という思い悩むこともある学年ですね。そこで各学年の先生に「自主学习」についてインタビューしてみました。



## 自主学习内容ランキング

- 1位 計算練習
- 2位 漢字練習
- 3位 本の写し

### 先生からのアドバイス

家庭で学習する習慣づけとなるようにと願っております。自力で頑張る、分からなかったら翌日「自分」で質問してくるといったこともできるようになって欲しいです。



## 3年生

**内容**  
月々水プリント(算数や漢字、文章読解など)  
自主学習プリント  
漢字テスト練習プリント

**目的**  
「自分で学習内容を見つけて行うこと」  
週一回、2ページ目標。

## 4年生

**内容**  
① 計算ぐんぐん・漢字ぐんぐん・都道府県プリント  
② 自主学習  
③ 1組のみ、日直は帰りの会でスピーチ(時事問題等)

**自主学习は、どんなことをやったらいい？**  
漢字や計算だけでなく、工夫のあること、発見したこと、興味のあることなど楽しんでやることを！授業のまとめでも良い。

**習い事との両立は？(4年生ならではの質問)**  
習い事の内容を書いてもOK  
大会などがあるときは臨機応変に。

**先生からのアドバイス**  
・自主学習楽しんで!!!  
・保護者の方もぜひ一緒に勉強してみてください。



自主学习も子どもそれぞれの個性や、その時興味のあるものが出てくるもの。それを通してお子さんの今を見るきっかけにもなるかなと思いました。何に目を向けたら日常の発見があるか、保護者も考える一緒に自主学习ととらえるのも楽しいかもしれませんね。

# 食欲の秋！文化の秋！笑いの秋！ ～心もお腹もいっぱい～

9/21(金)10時半～ランチルームにて、祖父母・保護者給食試食会 & 茶話会が催されました。お琴の演奏に今年は詩吟も加わり、日本文化のひとつを味わっていただきました。その後、毎年恒例の慶應義塾大学落語研究会の学生によるユーモアたっぷりの落語で、笑いの渦に包まれました。待ちに待った給食を頂き、秋の味を楽しみながらの談話。午後は振り込め詐欺対策の講演を聞きながら、お茶と和菓子を召し上がっていただき、充実した一日となりました。



**先生！質問です！**  
思いやりある温かな人になって、子どもたちへのメッセージ

今回は5年1組の担任であり、ダンスクラブの顧問でもある今井健志先生にインタビューをしました。教師になったきっかけや、子どもたちに対する思いなどを伺いました！

まずは、緑小ダンスクラブ、全国大会金賞おめでとうございます！  
今井先生は、教師になる前ダンスの先生だったと聞きましたが、どうして教師になろうと思ったんですか？

元々教員志望で教員課程を取ったんですが、大学のサークルでダンスに出会い、そのままはらくダンスの道を行くことになりました。将来のことを考えて26歳の時に試験を受け、教師になって今11年目、緑小に来て3年目です。教師になりたいと思ったのは、中学時代の恩師の影響です。いじめややっつけられないことをやった時だけ怒る、メリハリのある先生を見て、僕もこんな先生になりたいと思いました。

先生はどんな子ども時代だったんですか？

小学校まではすぐ泣く子でした。恥ずかしがり屋で人前に入るのも苦手。中学生ぐらいから段々人前になることが平気になっていきましたね。

教師になって大変だと思っていて、また反対に、やりがいだと思うことはありますか？

学習が苦手な子や学校に来られない子の支えになるにはどうしたらいいかと悩むことはありますが、大変だとは思わないです。やりがいは、子どもができるようになった時の表情を見ると、やって良かったと思います。教師は飽きないですね。楽しいです。子どもたちには、思いやりのある温かい人になって欲しいと思います。

ちなみに、今井先生の趣味は釣りなんだとか。「いつか大きなマグロを釣りたい」と、目をキラキラさせてお話ししてくださる姿が印象的でした。

教師の仕事もダンスも釣りも楽しんでいらっしゃる今井先生。そんな姿が子どもたちにはきっと伝わっていますね。貴重な時間をありがとうございました！

## 祝 緑小ダンスクラブ全国大会 金賞！

10月14日の第6回全日本小中学生ダンスコンクール全国大会にて、緑小のダンスクラブが小学生部門・学校参加の部で見事金賞を受賞！部長の田中夏澁さんに感想を聞いてみました。

Q: 金賞を取った時の気持ちは？  
A: 3年かかってやっと取れて、今のメンバーがいたから取れた金賞だと思って。

Q: これまで頑張ってきた大変だったことは？  
A: とらえ方を感じて一緒におどること

Q: 今回のダンスの1番のポイントは？  
A: ダサカッコよく笑顔で大きくおどること

Q: 後輩のみんなに一言  
A: 今回は全国で金賞だったから、レベルをおとさないよう頑張ってください。



## 子どもたちのお仕事 拝見 PART 2

**体育委員会**  
～体育委員より～  
ボールに空気を入れたり、ライカーに石灰を入れたりするのが楽しい。

屋休み、テキパキと慣れた様子で器具庫(この日は雨だったため外はなし)の用具を出し、掃除をしてまたきれいに直すと、思ったよりも大変な作業にもかかわらず、「大変じゃないよ！」と笑って答えてくれた子どもたちに感心してしまいました。12月の1・2年生との大縄跳び大会に向けて、大縄の練習にも励んでいました。



**保健委員会**  
～保健委員より～  
保健室の先生と仲良くなれるし、掃除もペーパーの補充もみんなで行って楽しくやっています！

エコキャップの回収中に「どんな仕事してるのか教えて」と聞くと、ささっと委員長が出てきて「壊れた掃除用具の回収や補充、花の種や苗を植えたり、朝休みの時間に花の水やりをしています。」とハキハキと答えてくれました。6年生ってこんなに頼もしいんだ！と改めて感じさせてくれました。

集めたエコキャップはここにまとめます。

**環境・美化委員会**  
～環境・美化委員より～  
花の苗や種を植えるのが楽しい。朝の水やりは時間ぎりぎりになっちゃうことがあるから、ちょっと大変。



～保健委員より～  
保健室の先生と仲良くなれるし、掃除もペーパーの補充もみんなで行って楽しくやっています！

この日は、発表に向けて「手洗いの大切さ」についてどうやったらみんなにうまく伝えるのか、意見を出し合いながら練習していました。普段は、季節ごとに年4回、保健目標を決めて各クラスに掲示したり、トイレトペーパーの補充や保健室掃除をしています。

～保健委員より～  
保健室の先生と仲良くなれるし、掃除もペーパーの補充もみんなで行って楽しくやっています！

隅々まできれいにするよ！

どうしたらいいかなあ？



図工の授業に潜入!

# 粘土で心の形を表現しよう

前号では、小野教頭先生から緑小の図工がめざすものについてお話を伺いました。その中で、「図工は過程が大事」というお話があったので、今回は5年生の図工の授業に潜入して、その過程がどうなっているのか?取材をしてきました!

まずは「心について思うイメージは何?」と今井先生が子どもたちに問うと、「太い」「イライラ」「おだやか」「心細い」「やさしい」等々、いろんな意見が飛び出しました。

次に、そのイメージを粘土で形にし、それぞれの心を表現するという活動に入っていました。

「どうしたらいいかわからない」

最初はそうやって悩む子どもも多数見られました。

心を形にするって?

でも、とにかく粘土を触り続けます。どんどん形にしていく子どもいれば、完成したのにあっさり壊す子もいる。

「どんな心を表現してるの?」と聞いたら、「怒り」「やさしさ」「悲しみ」「びびり」「不安」などなど、子どもたちなりに考えながら作品をつくっていることが伝わってきました。

そして、作品ができた子は、緑小の中で写真を撮りたい場所へ行き、そこに作品を置いて写真を撮ります。

「ここはこの角度から」「電気はつけなくて」と、自分なりのイメージを思い描きながら撮っている姿が印象的。

最後はできた作品と写真を、「緑の森美術館」@ランチルームにセッティングし、子どもたち同士で作品を鑑賞し合います。お気に入りの作品を選び、その作品に対して感じたことを伝え合う時間もありました。

作品を作る過程で自分の心と向き合い感じる。そこに図工の面白さがあり、自分を表現していくことの楽しさにつながっていくのかなと思いました。大人が期待する作品をつくるのではなく、子ども自身がその過程で何を感じたのかが大事。形に残らなくても、心の中にしっかり残っていくことでしょう。

## 子どもたちの感想

「作品は、怖いという気持ちや驚かす気持ちを表現しています。あっという間に時間が過ぎていった。」 S.Hくん(理科準備室のがいこつ前)

「優しい心を表現しました。楽しかったです。」 N.Kさん(2階お話しコーナー)

「びびり(びびってなった時の心)を表現しています。工夫したのは、全部トゲのところですよ。」 M.Tくん(図工準備室)



## 編集後記

夏休みにぐんと成長した子どもたちが、練習を積んで臨んだ運動会。どの学年も、どの子どもたちも、輝いて見えました。かわいい1年生が、少しずつ成長してしっかりし、全校を引っ張り、仲間と支え合う6年生になる。そんな成長の道のりも子どもたちに見せてもらいました。子ども達、先生方、P.G.T.と保護者の皆さん、すてきな運動会をありがとうございました。



人見



吉竹



初鹿



日下



大西 大西パパ



内山



福原



宅見



和田



武富

※7月発行の「緑の風」に1カ所訂正がありましたのでお知らせします。6年生の平和学習、被爆伝承者のお名前は「山川京子」さんではなく、「井上京子」さんです。謹んでお詫びいたします。